

はじめに

平成23年3月11日午後2時46分に発生した東日本大震災により、宮城県内の公立学校では、362名の児童生徒と、19名の教職員が亡くなられたり、安否不明となっております。

いかに今回の大震災が想定外の規模だったとはいえ、このように多くの尊い命が失われたことは、我々宮城県教育委員会としても痛恨の極みです。

また、学校施設をはじめ、社会体育・教育施設、文化財にも甚大な被害が生じました。

他の都道府県をはじめ国内外の多くの方々からの多大なる御支援と、関係者の皆様の御尽力により、現場では復旧への歩みを着実に進めてきてはおりますが、震災の発生から1年を経過したこの記録集を発表する時点でも、被災した多くの学校では、仮設校舎や他校を間借りして授業を行っており、また、その他の施設、文化財等の復旧工事も緒に就いたばかりであります。

児童生徒・教職員の心のケアの問題への対応をはじめとして、長期的に取り組まなければならない問題・課題は山積しており、これらの解決に向けてしっかりと取組を進めていかなければなりません。

そのような中で、発災後これまでに被災県の教育委員会が行った対応や学校現場の状況等について記録としてとどめ、後世に伝えると共に、関係者の参考としていただくことも大きな責務の一つであります。

この度、市町村教育委員会や学校の先生方等の多大なる御協力をいただき、これまでの取組を記録集としてとりまとめることができました。

このような記録集は印刷物として発行することが多いと思われませんが、今回は現時点で集約できた分のとりまとめであり、現在も継続中の震災対応の進捗状況に基づき、内容の更新や追加を行う可能性があること、また、他の都道府県の教育委員会や学校関係者の皆様をはじめ、行政機関や大学等研究機関の方々などにも広くご覧いただきたいと考え、インターネットに接続されたパソコンさえあれば誰でも閲覧が可能な、ホームページ上に掲載する形態としております。

本書が、今後の日本の教育現場における防災機能向上や防災教育推進の一助となれば幸いです。

平成24年4月

宮城県教育委員会教育長 高橋 仁

(トップページへは[こちら](#))